

## 第 49 回卒業証書授与式及び第 21 回専攻科修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第 49 回卒業証書授与式及び第 21 回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを、心から感謝し、お礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する 195 名、専攻科を修了する 24 名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けられてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。入学されてからの年月を振り返り、卒業生・修了生のみならず保護者の皆様にも万感の思いが込み上げていることと思います。

本校は、知・徳・体、三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、課外活動などに積極的に取り組むとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた、学科と専攻科を縦断する複合型生産システム工学プログラムにより、大学レベルの高度な工学教育も実施してきました。その中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、色々な思いが心をよぎっていることでしょう。もっと頑張ればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆さんは、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。誇りにし、自信にしてください。ただ、ご家族の方、先生方など、周りの人々の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないようにしていただきたいと思います。

さて、鈴鹿高専には養成すべき人材像が四つあります。一つ目は、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成することです。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材です。キーワード的にいえば、人間性、実践性、創造性、国際性の四つです。あなた方は、実践力を伴った創造力を有する、国際的にも活躍できる、人間性豊かな人物に育ってほしいと願って教育されてきました。この人材像は、一生を通じ当てはまるものですので、人生の節々で折に触れて思い出していただきたいと思います。

そして、皆さんの高専生活では、学業に加え、全力で取り組んだ課外活動や様々なイベント、そして海外研修も、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思います。私は校長三年目になりましたが、昨年にも増して、夏の体育大会や文化行事、秋のロボットコンテストやプログラムコンテストなどの各種コンテスト、高専祭や各種学会発表などを通じ、皆さんの素晴らしい成長する力を確認することができました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、皆さんが受賞した数多くの表彰の喜びを分かち合うこともできました。理科系、文科系、体育系などの様々な分野からの表彰でしたが、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できた次第です。

皆さんは、本科生、編入学生、専攻科生と様々ですが、入学後、概ね 3 年から 7 年間、学園生活を送られました。本科生が入学された 2010 年は、一字漢字で「暑」、猛暑で熱中症患者が相次ぎましたが、サッカーワールドカップ南アフリカ大会でベスト 16 に入り、サッカーも世界水準にあることを示しました。科学技術面では、小惑星探査機「はやぶさ」が苦難の末、地球に帰還しました。日本の科学技術の素晴らしさを示すとともに、「どんな困難があってもあきらめてはいけない、希望を持って努力しよう」と、自らの人生と重ね

て多くの人が思ったものでした。

そして、昨年も素晴らしいこと、考えさせられることがありました。一つは、青色 LED の開発で赤崎さん、天野さん、中村さんの日本人三人がノーベル物理学賞を受賞しました。特に天野さんは、名古屋大学の大学院生時代の研究が評価されたもので、皆さんと年齢的にはそれ程変わらない人です。本日、卒業、修了する皆さんの中から、未来の天野さんが現われるかもしれません。頑張ってください。それとノーベル平和賞を 17 歳で受賞されたマララさんです。マララさんは銃撃に会い、瀕死の重傷を負いながら見事に回復し、教育を奪われた子供たちのために教育を取り戻すべく様々な活動を行っています。教育の大切さ、素晴らしさを教えてくれる、皆さんと同年代のマララさんから何かを学び取っていただけたらありがたいと思います。

皆さんは、これから就職、進学など多様な道を進まれます。これから大人として生きる時代は、今まで以上に社会がスピーディに変化し、廃れる仕事、伸びる仕事がダイナミックに現れ、予測が困難な時代になるでしょう。ただ、確かなのは、確実に進行する人口減少の高齢社会において、若い皆さんの力が期待されているということです。そして、ロボットが人間に取って代わろうとする社会において、人間とは何か？と、人間の本質が問われる時代でもあり、“創造的破壊”の中で革新的な技術が誕生する面白い時代でもあります。皆さんには、高専時代に培った、だれにもまねができない、人それぞれに固有の潜在能力があります。社会に出て、これに一層磨きをかけ、“卓越”のレベルまで持っていき、顕在化してほしい。言葉を変えれば、あなた方の”固有価値“を高めていただき、新しい時代の要請に応えていただきたいと思います。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんとともに、幾人かの教職員も新しい職場に、人生へと踏み出されます。長きにわたり教育に尽力していただいた教養教育科の小倉教授、森講師、機械工学科の埴教授、電気電子工学科の北村教授、奥野准教授、大津教授、そして事務サイドからサポートをいただいた宇野学生課長、中村学生課主任などの方々です。これらの方の思いもひとしおかと思います。この場を借りまして深く感謝申し上げます。

結びにあたり、卒業、修了する皆様方が、この良き日をこれからの人生のスタートラインとして、充実した思い出深い高専生活での学びや経験を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを祈念するとともに、本日の式典にご多用中にも関わります。ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成 27 年 3 月 24 日

鈴鹿工業高等専門学校長  
新 田 保 次